

第9回 双葉町復興まちづくり委員会 議事概要

■日 時 : 平成25年2月6日(水) 午後1時00分～午後3時00分

■場 所 : 双葉町役場埼玉支所 4階 家庭科室

■出席者 : 別紙座席表のとおり

■議事概要

1. 開会

2. 議事

(1) 双葉町住民意向調査 調査結果(速報版)の報告について

資料2に基づき、復興庁より説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

- この結果が、避難している町民の本当の気持ちである。スピード感を持って進めていかなければならない。調査結果から出た課題をどのように対応していくのか、ということを考えていかなければならないと思う。
- スピード感を持ってやらなければ、だんだんと町民の考え方が変わっていくことを実感した。
- いわき市が多いのは、震災前よりいわき市が双葉町の生活基盤の一部になっていたこと、気候が温暖な地であるということが考えられる。また、学校を早く立ち上げなければ、双葉町そのものの本筋が薄れてしまうので、早く手を打つべきだと思う。
- 学校再開に関して町民の約2割が町の学校を望んでいること、4割がまだ判断できない状況にいることを踏まえれば、未来の双葉町を支える子どもたちを双葉南、北小学校、双葉中学校で学ばせる方向でスピード感を持って進めていただきたいと思う。また、30代の多くが仮の町を待つことができる期間は2、3年以内と言っている中で、学校に関してはそんなに待ってもらうことは無理だと思う。
- 双葉南小・北小を合わせて300人強在籍していたが、仮にアンケート結果の通り2割の町民が町の小学校に通わせれば60人規模になりうるため、町民が離れないうちに早期の再開が望まれる。
- この意向調査は非常に細かく素晴らしいと思う。ただ、人の考えは随時変化するため、定期的にあまり設問を変えずに継続していただきたい。
- 双葉町に戻らないという場合に、住民票を移して双葉町民でなくなるのか、住民票は移さず双葉町民であり続けながらも双葉に戻らないことを考えているのか、この区別が今回の調査では分からない。今後町民数がどうなるのかということは、財政規模の収縮など町の存続に関わることでもあるため、戻らないということの中身は、重要なファクターだと思う。

- 戻らないと言いながら、今の避難先からの転居時期がまだ決まっていないと迷っている人がいるので、戻るという選択になるように、今後の条件づくり等町民の希望に沿ったまちづくりが必要だと思う。
- 今回の回収率は約 6 割だが回答者の属性は現在の町民構成と照らしても問題ないか。また、早急に色々決定していくより、このデータを基に十分に分析してから、方向づけを考えた方がよいのではないか。
- 仮の町構想については、極端に高い期待を持っていないということははっきり言える。それを踏まえて仮の町構想をどうしたらいいのかということを一歩突っ込まないと、仮の町構想は具体化できないということが今後の課題だと思う。
- 仮の町に期待していないという結果は、時間がかかる、国の対応も遅いということがあり、期待を持つことができずに失望に変わってしまったと思う。町が当初想定していた仮の町のイメージだと、受入自治体側との関係を考えると、単に集合住宅に双葉町民が住むという姿にしか捉えられない。
- 仮の町がどういう形になるかということは大変重要だが、仮の町の在り方を 1 カ月程度で組み立てることは難しいのではないか。また、仮の町を希望しない町民や双葉町に戻らないとした町民に対してどのような支援を行っていくべきかを考えないと、これからの町の再生はできないのではないか。
- 多くの町民は仮の町がいつどこでどういうものなのかが分かっておらず、仮の町ができるまでに時間がかかると思っているため、町に帰らないという数字に繋がっていると思う。その意味では、委員会と双葉町として早く問題を整理していかなければいけないのではないか。
- 町民がただ住むだけのような仮の町をつくったのでは、希望していた人も来なくなってしまう。逆に、魅力のある仮の町をつくれれば、希望していなかった人も心が変わってくると思う。そのためにも、魅力な町とはどのような町なのかをスピード感を持って集約していかなければならない。

(2) 7000 人の復興会議における町民の意見・提案のとりまとめの報告について

資料 3 に基づき、事務局より説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

- 仮の町というのは、復興過程におけるメニューの 1 つであり、全部を託すのは危険すぎる。
- 全国にバラバラに避難している町民が仮の町以外でどのように生活していたらいいのか、支援は何があるのかということを知りたい人がたくさんいることを認識して、支援のメニューをたくさん用意することが必要。

また、昨年 6 月に子ども被災者支援法が制定されたが何も動いておらず、この制度をもっと有効に活用していくべき。

- 相当のメニューがあるが、それを時間的に区切って段階的にやっていかなければならない。学校の問題についても、早急に何かをしようということであれば、出来ることからやるという形も仮の町の 1 つの仕組みであると思う。
- 仮の町についても、既に役場が加須と福島に 2 ヶ所あるわけだから、そこを基本にしてどのような形で 1 つのものを作り上げるかというふうに進めていくこともあるのではないか。
- 現在の仮設住宅等での生活は決して安心して暮らせるような状況ではない。双葉町での生活に少しでも近づけるような、不自由のない魅力的な町をつくれば、町民は集まってくると思う。
- 全国に散らばっている町民一人一人に対して手を差し伸べるには大変だが、地元の方々の協力も得ながらみんなで助け合えるような組織も作っていくことも必要だと思う。
- 町民、県民が出ていくのは、何とんでも放射線が高いことと、原発が安全だという保障がないためである。戻れるようにするには、放射線量を低くする努力を国・県と一緒にやらないといけない。この課題を何とかしないと、仮の町を今後どこに作ろうともなかなか難しいと思う。
- 復興まちづくり計画をまとめる段階で、国の考えも入れてもらいたい。この計画にはスピードが大事であり、遅れればそれだけみんなの心はバラバラになってしまう。そういう意味では、国・県のフォローがなかったら町の計画も実現できない。

(3) その他

3. 閉会

第9回双葉町復興まちづくり委員会座席表

(敬称略)

岡村 隆夫
三井所 清典
鈴木 浩

1 日時 平成25年2月6日(水)

全体 13:00~15:00

2 場所 双葉町埼玉支所 4階家庭科室

復興庁 真鍋 聡 専門調査官	(関係者)	高野 重紘	清水 修二	駒田 義誌	相楽
		高野 泉	宇杉 和夫	事務局	橋本
福島復興局地域班 鈴木 伸彦 参事官補佐	(関係者)	吉田 岑子	(代理) 三浦 善憲	平岩 邦弘	西牧
福島復興局企画班 安保 広訓 主査		井上 六郎	藤田 博司	井上 一芳	吉野
福島県 避難地域復興課 安斎 浩記 総括主幹兼副課長	(関係者)	岩元 善一	齊藤 宗一	高野 憲一	事務局 小松
(代理)税務課 志賀 公夫 課長補佐		遠藤 直敏	木幡 敏郎	武内 裕美	中川
生涯学習課 今泉 祐一 課長	(関係者)	松本 浩一	西内 芳徳	大住 宗重	根本
		荒木 幸子	鵜沼 友恵	渡辺 勇	事務局 森
			渡邊 ゆかり	山下 正夫	
				(代理) 渡邊 英之	事務局